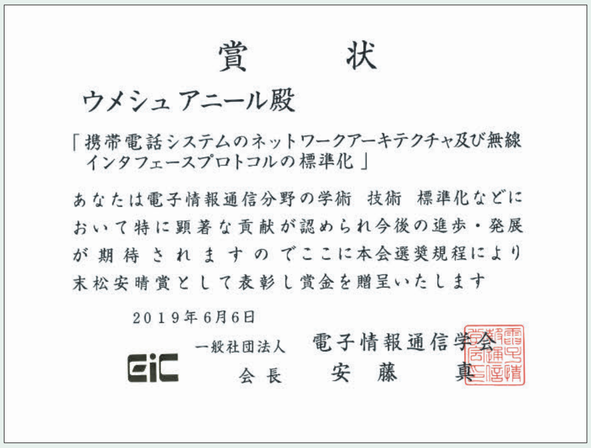
電子情報通信学会　第5回「末松安晴賞」受賞

2019年6月6日に開催された一般社団法人電子情報通信学会「2019年定時社員総会及び式典」において，無線アクセス開発部　ウメシュ アニールが「携帯電話システムのネットワークアーキテクチャ及び無線インタフェースプロトコルの標準化」に貢献したとして第5回「末松安晴賞」を受賞しました．

末松安晴賞は，電子情報通信分野における学術，技術，標準化などにおいて特に顕著な貢献が認められ，今後の進歩や発展が期待される若手研究者・技術者・実務家に授与されるものです．

今回の受賞は，3GPP（3rd Generation Partnership Project）を中心とした第3.5世代（HSPA：High Speed Packet Access），第4世代（LTEおよびLTE-Advanced），第5世代（5G）の携帯電話システムのネットワークアーキテクチャおよび無線インタフェースプロトコルの標準仕様策定における数多くの技術提案や，多数の標準必須特許の取得，取りまとめ役（エディタやラポータ）として仕様完成に導いた活動など，多大な貢献が認められたものです．直近の5G標準化では，基地局装置の構成において，異なるベンダの集約ノード（CU：Centralized Unit）と分散ノード（DU：Distributed Unit）の相互接続を可能とするインタフェース仕様の標準化を積極的に進め，3GPPにとどまらず他の標準化団体（xRAN，O-RAN Alliance）に活動領域を広げていることも評価されました．

受賞したウメシュ アニール（右）



賞　　状

ウメシュ アニール殿

「携帯電話システムのネットワークアーキテクチャ及び無線インタフェースプロトコルの標準化」

あなたは電子情報通信分野の学術　技術　標準化などにおいて特に顕著な貢献が認められ今後の進歩・発展が期待されますのでここに本会選奨規程により末松安晴賞として表彰し賞金を贈呈いたします

2019年6月6日

一般社団法人　電子情報通信学会

会長　安　藤　　真